

平成30年度 上田市立塩田西小学校 自己評価シート

学校教育目標	めざす子どもの姿(中期的目標)
かしこく やさしく たくましく ～一人ひとりが生きる学校づくり～	「かしこく」 意欲的に学習に取り組む子ども 「やさしく」 人やものを大切に作る子ども 「たくましく」 心と体をきたえる子ども
	今年度の重点目標
	1 学び合いによる「わかる・楽しい授業」づくり → 自分の考えを発信しよう。
	2 誰もが安心できる学級・学校づくり → 良さを認め合おう。
3 自分を向上させる心と体づくり → 目標を持って挑戦しよう。	

総合評価					
○「誰もが安心して学ぶ場」を意識して授業に取り組んできた。見やすい板書や問題文の提示の工夫・ホワイトボードを利用して、子ども同士が考えを伝える場を設定する事で、友だちと係わる姿や意欲的に学習に取り組む姿が見られるようになった。 ○「やさしく」をどのように考え子どもたちに指導していくか、職員が共有する事が大切だった。温かい言葉をかける子どもの姿が見られたが、言葉づかいのきつさや相手の気持ちを考えない姿も見られた。 ○「たくましく」を結果でなく、過程の大切さと充実し目を向けて勇気づけていくことが、子どもたちの心のたくましさにつながっていくことが分かった。					
成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
子ども同士の話合いの場を設定したり工夫したりすることで、お互いの考えを伝え合うことができた。		○			考えを伝え合う中で学びを深めるために、子どもの考えを繋ぐ方法を考えていく。
全学級でUD化を意識し、友だちの頑張りや良さを認め合う場を設定し、友だちの良さを受け入れる環境ができています。	○				全校集会や仲よし集会など、学級を越えた学年・全校の場を工夫し、学校全体で認め合う場を作る。
全校で根気よく取り組む場としてマラソン月間を設定した。目標を持つことが意欲的な姿に繋がっていた。		○			一人ひとりが自分に合った目標を持ち継続した活動になる用に取り組む方を工夫していく。

領域	対象	評価項目	評価の観点
教育活動	教育課程・学習指導	特色ある教育活動の意識化	・ふるさと体験学習を通して、探究する楽しさや粘り強く追究する意識を持たせることができたか。
		学習に向かう基本姿勢	・全校共通の「塩田西スタイル」の意識化に取り組んでいるか。
		子ども主体の授業	・学習問題を明確にし、友だちと主体的に関わり粘り強く追究する場を設定し、子どもが主体となる授業を展開しているか。
		授業の3観点の実行	・学習の「ふりかえり」を意識した授業を展開しているか。
		豊かな自己表現力の育成	・考えを伝え合いながら学習を深める学び合いの場を設定しているか。
	生徒指導・学級経営	挨拶の励行	・職員自ら挨拶をし、挨拶のよさを意識させる事で、児童が進んで挨拶を行う姿を学校や地域に広げることができたか。
		主体的に活動する子どもの育成	・目当てを明確にし、子どもが主体的に活動する児童会活動、学年学級の活動の場を設定したか。
		認め高め合う子どもの育成	・児童が「認められている自分」「肯定感」を意識できるような場の設定や勇気づけをしているか。
		たくましい心の育成	・目標設定、行動、評価のサイクルを回し、挑戦する気持ちを育てる場を設定しているか。
	学校運営	地域との連携	キャリア教育の推進
積極的な情報発信			・学校ホームページ、学校だより等で情報の発信ができていますか。
児童の安全確保			・安心メールを活用したり、安心の家、安全ボランティアと連携したりしながら、保護者や地域の方と協力して取り組んでいるか。
研修		校内研究・研修の充実	・子どもが安心できる学級づくりと学び合い考えを伝え合う授業づくりに向けた研究・研修に取り組んでいるか。

成果と課題	A	B	C	D	改善策・向上策
ふるさと体験学習が地域の方の支援で行うことができ、意欲や感動のある充実した学習となった。	○				学年ごとの体験学習を、子どもたちにどう出会わせていくか、どう展開させていくかを考えていく。
UD化を意識し授業に取り組むことで、「塩田西スタイル」の授業や子どもの困り感を考える授業に取り組めた。		○			来年度は、授業のUD化の研究をさらに進め、「塩田西スタイル」の授業を日常化させていきたい。
学習問題のや学び合いの場を設定、追究の時間を増やす、子どもの言葉を大事にする等、どの学級でも教材研究をし子ども主体の授業に取り組めた。		○			子どものつぶやきが出やすいように発問や考えのつなぎ方など重点を絞り、互いの授業を通して研究を進めていく。
ふり返りを意識しているが、授業時間の中に位置づけ、自分の言葉で書くことができないことが多い。		○			明確なねらいとメリハリのある授業を考えていく。振り返りはねらいに返る意識を持ち、ふり返りの時間を含めた授業展開に努める。
学び合いの場の設定と理由を言う伝え方を教え、「伝え合い学び合う場」を大事に考えて授業を仕組んだ。「学習を深める」についてはさらに工夫が必要。		○			考えの伝え方・学び合いの視点を明確にし、「考えを深めるための学び合い」へと研究を進めていく。
職員自ら大きな声や笑顔を意識して挨拶をしていたが、子ども自ら挨拶をする・返事を返すという姿には差がある。	○				職員から挨拶をする姿を継続しながら、子どもたちが自分達で挨拶できる様に声をかけし、児童会活動の挨拶運動を支援していく。
子どもたちが主体的に活動ができるように手立てや活動の場を意識して設定した。子どもたちは自分達で考えを出し合い工夫して活動をしていた。		○			教師はどんな活動や場を仕組み、子どもたちにどんな力をつけるのか明確にし、「子どもに任せる」を意識していく。
子どもたちの姿の変化に言葉を添えたり、学習の中で共に頑張り認め合う等、肯定感を意識する場を設定した。子どもたちに明るい意欲的な姿が見られた。		○			Q-U検査の結果から、見えない子どもの思いを受け止め、子どもたちの肯定感を高めていくような勇気づけに努める。子ども同士の認め合いの場を作る。
マラソン大会や縄跳び等、カード形式のスマールステップで目標達成を目指す活動を仕組み、挑戦する過程を大切に取組んだ。達成感を味わう姿が見られたが個人差がある		○			児童一人ひとりに応じた目標が設定でき、挑戦することの楽しさや達成感を味わえるような活動を仕組み。
地域講師の支援により活動が充実し、蚕の学習では初めての活動に取り組むことができた。学習ボランティアにより、専門的な知識の習得ができた。	○				とっこ館・公民館・地域の人材を活用し、情報を得ながら新たな地域講師を探し、活動の幅を広げていく。
子どもの姿や学校の様子が伝わるように工夫をしながら、学年便りや学校便りを定期的に発行した。また、HPの更新を心がけた。		○			安全健康に関しては、早めの情報発信に努め、保健便りもHPに上げていく。
4月に安心メール登録の確認をし、全家庭に配信できるようにした。子どもたちの安全に配慮し、こまめに保護者と連絡を取り合った。	○				保護者との連携を図るため、正確な情報共有ができるような保護者連絡先の作成を検討する。
UD化の視点を入れた「塩田西スタイル授業作り構想シート」をもとにUD化の視点を大事に授業研究を進め、全学級授業公開をした。MIMIにも取り組み、職員は、子どもからスタートする授業の大切さを感じた。		○			UD化・MIM・Q-Uについて職員の意欲が高まるような研修の充実を図る。授業研究会の時間確保にも努める。

○ 評価基準 A・・・達成できた B・・・おおむね達成できた C・・・やや達成できなかった D・・・達成できなかった